

2008年6月23日

投資家の皆様へ

日興アセットマネジメント株式会社

ブラジル株式相場の軟調な推移について

ブラジルの代表的な株価指数であるボベスパ指数は、先週末の20日に前日比3.0%の下落となりました。なお、同日までの一週間の騰落率は▲3.9%と、3週連続の下落となっています。

＜ブラジルの株価とレアル(対円)の推移＞
(2004年1月2日～2008年6月20日)



※上記は過去のデータであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

※信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。

足元でのこうしたブラジル株式相場の軟調の背景には、金融機関の業績不安の再燃や原油高などを背景に20日の米国株式相場が比較的大きく下落したことに加え、①ブラジルの主な輸出分野の一つである資源への需要が低下するのではないかとの懸念や、②金利上昇がブラジルの個人消費や設備投資などの国内需要を抑制するのではないかとの見方などがあるものとみられます。

■当資料は、日興アセットマネジメントがブラジル経済などについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

① 資源需要の低下観測

世界的にインフレ圧力が高まる中、これが世界経済の成長鈍化などを通じて資源需要の低下につながるのではないかと懸念が生じている模様です。例えば、先週、中国が統制価格を見直し、ガソリンなどの石油製品価格および電力料金を引き上げると、需要低下観測から原油相場が大きく下振れする場面がありました。こうした連想から、ブラジルでは鉄鉱石・鉄鋼セクターなどの株価が軟調となりました。ただし、仮に資源需要が低下する場合でも、それがインフレ圧力の緩和、ひいては需給と価格のバランスのとれた中長期的により望ましい環境につながる可能性もあると考えられます。

② 金利上昇に伴う国内需要への影響

ブラジルは、インフレ・ターゲティング政策などの下、インフレ体質から脱却し、人々のインフレ心理の安定化や企業・家計の中長期的な不透明感を緩和させることによって、個人消費や設備投資などを刺激してきました。こうした流れを考えると、今後の物価動向等に注意は必要なものの、インフレ抑制に向けて今後も続くと思われる利上げは、ブラジル経済の安定・高成長の持続に資するものであると期待されます。

弊社では、世界経済の成長鈍化の影響をブラジルも完全には免れないものの、同国の実質経済成長率への影響は限定的と見ています。そして、インフラ投資という牽引役にも恵まれている同国が、今後も相対的に高い成長を維持できると見込んでいます。

以上

■当資料は、日興アセットマネジメントがブラジル経済などについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。